

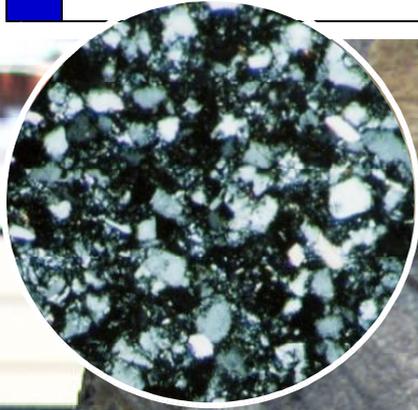
# 深海底の砂と泥

岩石名 タービダイト Turbidite

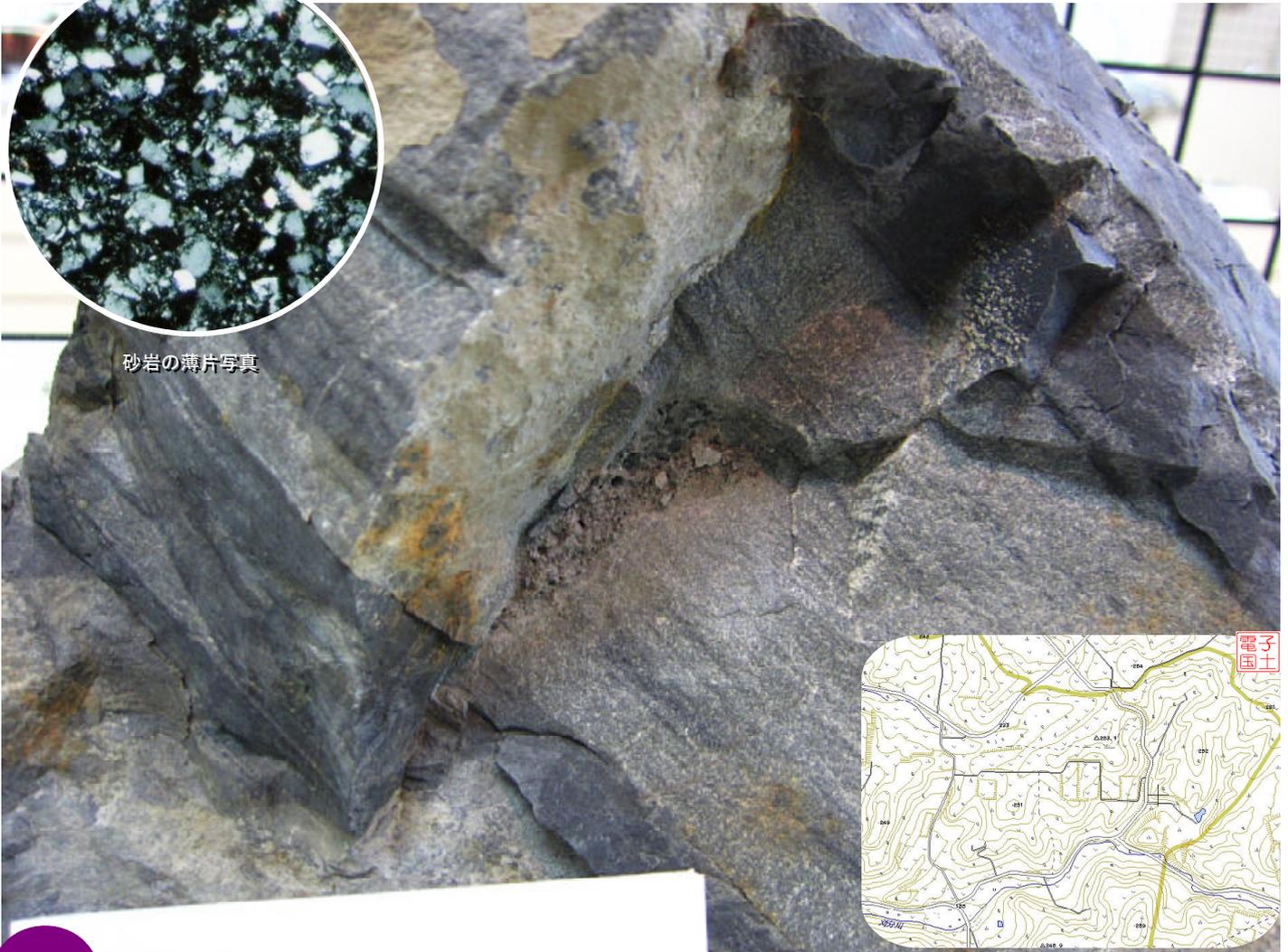
時代 中生代白亜紀

地質区分 イドンナップ帯

産出地 剣淵町刈分川



砂岩の薄片写真



## 解説

### 海溝の堆積物



剣淵町刈分川の砂岩泥岩互層

この地域のイドンナップ帯は、主に海底火山の付加体ですが、剣淵町桜岡付近には、刈分川層と呼ばれる、砂岩と泥岩の互層が分布しています（写真）。このような地層はこの狭い地域にしか露出し

ておらず、桜岡貯水池北方に限られています。

この露頭では、黒色頁岩と細粒砂岩の等量の互層が観察されますが、砂岩層の中に、黒色泥岩の角張った破片が多量に取り込まれており（rip-up clast）、斜面を流れ下りながら堆積したことを示しています。このことは、この地層が海溝を越えた遠洋性堆積物ではないことを示しています。そのように陸側から海底の斜面を下って堆積した地層を「タービダイト」といいます。深海底に堆積した砂や泥が海溝に付加したものでな

く、大陸側から付加体の上に流れ落ちてきた砂や泥と考えられ、「海溝充填タービダイト」または「海溝斜面堆積盆の堆積物」である可能性があります。



砂岩と泥岩のリズミカルな互層

この地層は断層や褶曲が発達しており、地層全体に大きな力が加わったことを示しています。

なお、この露頭の黒色頁岩中の放射虫化石の調査から、形成年代は白亜紀後期（early Cenomanian）であることがわかっています。

### 調べてみよう

- 断面を観察して、ミニ地層を確認しよう。
- 透明なパイプに水を入れ、砂や石を混ぜたものを一気に落してみよう。地層ができます。